



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 101

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 101. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1961, 101: 65-70

ISSUE DATE:

1961-02-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186946>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 101

1961. 1月 (2月5日)

録 事

1月1日 例年の通り水族館事務室で年賀会をもよおした。

1月9～11日 理学部松森事務長補佐(振興会委員)は山路委員と和可山財務局に出張し、水族館増築申請の打ち合わせを行ったのち、更に事務打ち合わせのため来所。

1月11日 本日付で実験所船置場土留と船置場の寄附を文部大臣より正式受領認可された。

1月18日 和可山財務部管財係長梶原万寿雄氏ほか1名実験所の国有財産を視察のため来所。

1月20～22日 宮谷理学部事務長と国有財産掛長代理として石本人文科学事務長が来所し、近畿財務局管財部次長浅沼典男、全管財第1課不動産課長上田俊男、和可山財務部管財課長溝田沢之助氏をむかえ、国有財産の視察と、水族館増築について打合せた。

1月22～24日 中海干拓生物調査研究班の発表会が開かれ、宮地哲彦ほか15名出席した。

1月24～2月2日 山路委員は多奈川発電所の取水路付溢生物調査のため出張。

1月31日 原田研究員は1月21日神戸入港の英国船で帰朝し、解里で静養後本日無事帰所した。

平やす子事務員は1月1日付で採用、本年夏予定した事務員の採用をおわった。

業 務 概 況

◎ 1月の入場宿数

区 分		大 人		小 人		合 計	
		本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
水族館発売	個人	9567	86129	713	5952	10280	92081
	団体	13796	183505	—	—	13796	183505
交通公社発売		7040	75428	—	—	7040	75428
明光バス発売		22656	203938	853	7318	23509	211256
合 計		53059	549000	1566	13270	54625	562270
無 料						0	1599

団 体：一般 171組、学生 2組 合計 173組

◎ 1月の事業収入 (今年度累計)

観光券売上金	808,468	9,759,760
窓 口 売 上	429,044	4,723,157
交通公社クーポン	116,564	1,225,693
明光バス観光券	262,860	3,810,910
※		
予金・積立金利子	—	461,885
手 数 料	37,633	482,823
紙はがき拂 下	34,250	314,060
パンフレット拂下	600	64,630
魚 菜 拂 下	—	200
鞋 収 入	300	4980
諸施設改善積立金より繰入	18,180	1,707,277
合 計	899,431	12,795,617

※ 明光バス観光券未収分 大人券 23906枚
小人券 939枚

◎ 1月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	118,891	1,369,693	
会 議 費	4,000	131,364	
備 品 費	2,550	487,880	
消 耗 費	15,071	327,284	
平 常 費	50,543	501,016	
修 繕 費	71,988	317,371	タイドプール設備費用他
其他経費	52,357	1,039,326	近畿財務局員接待費他
積 立 金	207,100	2,065,312	
合 計	529,500	6,239,246	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	—	128,011	
奨 学 金	—	60,000	
備 品 費	4,200	177,208	
消 耗 費	—	—	
刊 行 費	—	859,983	
役 務 費	—	123,370	
合 計	4,200	1,348,572	

伝物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	38,500	486,489	
備 品 費	—	25,200	
消 耗 費	—	2,350	
役 務 費	—	8,980	
合 計	38,500	523,019	

臨時費

摘 要	金 額	累 計
水族館建整推進費	25,370	
販賣宿舍備品（暖炉ストーブ、やぐらこたつ）	18,180	
合 計	43,550	2,563,661

支出合計

（今年度累計）

水族館経費	529,500	6,239,246
実験所経費	4,200	1,348,572
伝物館経費	38,500	523,019
臨時費	43,550	2,563,661
合 計	615,750	10,674,498

◎ 1月末現在高

前月よりの繰越	1,837,438
今月の収入合計	899,431
今月の支出合計	615,750
現 在 高	2,121,119

◎ 前年度との比較

	1960	1961	増 減
入 場 者 数	47879	54625	+ 6746

水族館記事

- ◎ 事務室西側通路の角に潮干帯の模型を作った。水槽の大きさは上底約0.4m, 下底約1.2m, 高さ約2m, 深さ約24cmの梯形で、満潮の深さは18.5cm, 底潮の深さは6.5cmで、水洗便所に用いるサイフォンを利用して、潮の干満を作った。水槽内にはフジツボ、カメノテ、カキ類、ウニ類、海藻類を配置した。
- ◎ ゴンズイが2日、13日、30日に合計1000個体以上入槽した。大きな密な群を作って大水槽で游泳するのは仲々好評であった。死亡数も非常に多く、月末で約150個体程生存している。
- ◎ 19日に和可山からサザエを約40Kg購入したが、水質がことなるためか、数日中に全滅した。
- ◎ マタコが24日に2個体、テナカタコが17日に1個体入槽した。31日に後者は死亡。コウイカは今月4個体入槽し、水槽内に産卵したが、31日に1個体を残して死亡。
- ◎ アカウミガメの仔が24日に2個体死亡した。生存数は51個体である。例年とちがって多数生存している理由は、暖房は例年と同様手えているので、夏の入槽後とくに食餌を十分与えていたことが寒さに対して抵抗力を作ったものと思われる。
- ◎ 25日にクマノミが1個体死亡した。生存数は4個体。
- ◎ N0.35水槽のコトヒキが下旬に8個体死亡。体表面に内出血を起し、部分的に鱗が脱落しているが原因はよくわからない。
- ◎ 1月31日現在、観覧水槽に収容飼育中の動物は総計124種、1592個体以上で、その内訳は次の通り。

カイメン類	1種、	フシツボ類	2種、	ウミシダ類	2種、
ヒドロ虫類	1種、	エビ類	8種、	ヒトデ類	3種、
ウミトサカ類	1種、	ヤドカリ類	3種、	ウニ類	1種、
ヤギ類	3種、	カニ類	7種、	ナマコ類	1種、
イソギンチャク類	6種、	ニ枚貝類	2種、	ホヤ類	1種、
イシサンゴ類	9種、	巻貝類	5種、	軟骨魚	4種、
ハナギンチャク類	1種、	アメフラシ類	1種、	硬骨魚	54種、
多毛類	2種、	イカ類	1種、	カメ類	3種、
カブトガニ類	1種、	タコ類	1種、		

資 料

- ◎ 1月の気象 (9時観測)
南水槽室 (水温・比重はN0.27水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (22)	5	9	8
気 温 (°C)	$\frac{7.2 \sim 13.2}{10.0}$	$\frac{8.4 \sim 11.4}{9.4}$	$\frac{8.8 \sim 12.5}{10.1}$
水 温 (°C)	$\frac{11.29 \sim 13.67}{12.48}$	$\frac{11.29 \sim 13.15}{11.91}$	$\frac{10.90 \sim 13.81}{12.53}$
比 重 (015)	$\frac{24.44 \sim 25.37}{25.06}$	$\frac{24.75 \sim 25.43}{25.14}$	$\frac{25.30 \sim 25.69}{25.54}$

取入口

水 温 (°C)	$\frac{11.76 \sim 16.02}{13.78}$	$\frac{11.96 \sim 13.81}{13.03}$	$\frac{11.87 \sim 15.00}{13.52}$
比 重 (015)	$\frac{24.85 \sim 25.35}{25.17}$	$\frac{25.25 \sim 25.62}{25.44}$	$\frac{25.29 \sim 25.78}{25.61}$

来 訪 録

- 1月3～6日 京大動物学科卒業生の青藤多文氏ほか5名は雑誌講演会のため来所。
1月10日 関西医大生物学教室の山口節子氏はサンショウウオの卵を採集のため来所。
1月28～29日 泉南高校教員浜谷巖氏後継英採集のため来所

正誤

12月の入場者数の大人累計の合計欄を495941に訂正。

昭和36年2月5日 (NO. 101)

編集兼
発行者

山路 勇

発行所

瀬戸臨海実験所振興会
和可山泉 白浜町
瀬戸臨海実験所内
(Tel.白浜温泉 515)